

第52回全国七大学総合体育大会「閉会式」挨拶

ただいま、ご紹介いただきました大阪大学総長の平野でございます。

第52回全国七大学総合体育大会の閉会に当たり、主管校の大阪大学を代表いたしまして、ご挨拶申し上げます。

今年は大変な猛暑でしたが、大きな事故もなく、無事に閉会式を迎えることができました。これもひとえに円滑な運営にご協力してくださった参加大学の皆さん、関係者の皆様、そして、実行委員会の学生諸君の弛まぬ努力のおかげです。この場をお借りして、実行委員会の皆さんに「ありがとう」と「お疲れさま」という言葉を送りたいと思います。

また、本大会を通じて、多大なご支援・ご協力を賜りました関係各位並びに関係諸団体の皆様にも心よりお礼申し上げます。

さて、本大阪大会では、昨年12月のアイスホッケーを皮切りに、約9カ月間に渡り、全31種目で熱い戦いが繰り広げられました。激戦を戦いぬき、見事総合優勝を果たした東北大学の選手諸君、本当におめでとうございませう。心から栄誉を称え、お祝い申し上げます。

スポーツは今年、東北イヤーと言ってもいいかもしれません。高校野球の東北勢の活躍は記憶に新しく、プロ野球でもマー君こと田中投手の活躍もあり、楽天イーグルスが球団創設以降初めてのリーグ優勝へ向け、首位を快走しています。そして今回の東北大学の優勝は、復興で頑張っておられる東北の皆さんをさらに勇気づけることでしょう。

またつい先日、2020年の東京オリンピック開催が決定しましたが、ブエノスアイレスで行われた、招致委員の最終プレゼンでトップバッターを務め、感動的なスピーチをされたパラリンピック陸上の佐藤真海（さとうまみ）選手も東北出身でした。彼女は大学生の時に骨肉種により右足の膝下切断という過酷な運命に遭いましたが、義足のアスリートとして苦難を乗り越え、パラリンピックや世界選手権でも活躍されています。また一昨年の東日本大震災では自身が被災しながらも、悲しみにくれる被災地を回り、スポーツを通じて絆を深めたり、勇気づけをする活動も行っています。

そんな彼女のプレゼンの中で、こんな言葉がありました。「私にとって大切なのは…私が持っているものであって、私が失ったものではないということ学びました。」彼女が失ったものは計り知れないほどの悲しみを伴ったと思いますが、スポーツを通じて、そうではないと学んだということです。ここにいるみなさんも、それぞれが、それぞれの競技を通じて、

いろんなことを学んでほしいと思います。そしてこの七大戦が、成績を競い合うだけでなく、競技を通じて、みなさんの絆を深めたり、何かを学んだり、気づきがあったり、そういう機会として今後も続けていければと思います。

7年後と言えば、ここにいるみなさんはアスリートとして円熟期に入っている頃ですが、もしかしたらこの中から、オリンピックに出場している人がいるかもしれませんね。

来年は、京都大学が主管校です。素晴らしい大会となる期待と同時に、祇園祭の熱気溢れる京都の地で皆さんに再会できることを楽しみにしています。

最後に、本大会にご支援・ご協力を賜りました全ての方々に、改めて感謝とお礼を申し上げると同時に、七大戦の更なる発展を祈念して、私からの挨拶といたします。

平成25年9月21日

大阪大学総長 平野 俊夫